

病気予測モデル開発へ

弘大ミルテルと研究講座

弘前大学（福田眞作学長）と健康診断システムを手掛けるミルテル（広島市、加藤俊也代表取締役社長CEO）は29日、共同研究講座「データヘルス研究講座」の設置開式を行った。弘大の「岩木健康増進プロジェクト」のビッグデータとミルテルの検査技術を組み合わせ、生活習慣から病気を予測するモデルの開発を目指す。（赤田和俊）



共同研究講座のプレートを掲げる福田学長（左から2人目）と加藤CEO（同3人目）ら

広島大学発のベンチャー企業
のミルテルは、血液や細胞内の
染色体から病気の予兆がないか
調べる「ミルテル検査」を開発。
同検査の結果と弘大のビッグデ
ータを組み合わせ、運動や食事
などの生活習慣から、かかりや
すい病気を予測し、発症防止に
つなげる考え。

研究講座は今年1月1日付で
弘大内に開設済みで、期間は3

年。
29日、弘大医学部で開式が
行われ、加藤CEOが「共同研
究を基に、弘大ブランドの新た
なサービスを生み出せたら」と
抱負を語った。
弘大とミルテルに明治安田生
命保険（本社東京）を加えた3
者は2019年1月、未病（病
気になる前の状態）の改善を目
指す共同研究講座を開設した。